

登録コード	UAF44500	開講年度	2026				
授業題目	学校心理学特論					担当教員	茅野 理恵
						副担当	
単位数	1	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期		
				授業形態	講義		
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」					【授業の達成目標】	
(2)授業の概要	・学校心理学の視点から、子どもへの援助の全体像およびプロセスを理解する。 ・アセスメント、カウンセリング、コンサルテーションのそれぞれについて、その概念と目的を理解する。 ・具体的な事例を基にしたディスカッションを通して、学校心理学の視点から子どもへの援助について検討する。 ・全体を通して、担当教員が公立小中高等学校および教育専門機関における教育相談の実務経験を活かして講義を行う。						
(3)授業計画	第1回～第9回：オンデマンド 第 1 回 学校心理学とは何か 第 2 回 学校心理学の構成要素 第 3 回 学校心理学の方法 第 4 回 学校心理学が対象とする領域 第 5 回 誰が援助するか：4種類のヘルパー論 第 6 回 誰を援助するのか 第 7 回 援助者の活動：心理教育的アセスメント・カウンセリング 第 8 回 援助者の活動：コンサルテーション・コーディネーション・チーム援助 第 9 回 3段階の心理教育的援助サービス 第10回～第14回：対面 第10 回 事例検討（中学生女子Aの事例） 第11 回 事例検討（小学校低学年男児Bの事例） 第12 回 事例検討（小学校低学年女児Cの事例） 第13 回 事例検討（小学校高学年男児Dの事例） 第14 回 事例検討（小学校高学年女児Eの事例） 定期試験 無						
(4)成績評価の方法	1)以下を総合して判定する。 ・授業への主体的・積極的な関与を確認する「授業実績」：50% ・毎回の授業の理解度を確認する「振り返りレポート」：50% 2)得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀，89-80% 優，79-70% 良，69-60% 可，59%以下 不可						
(5)成績評価の基準	授業で出された課題の遂行具合 ディスカッションに積極的に参加することができたか 他者の意見を取り入れながら柔軟に課題を検討することができたか 授業後の振り返りレポートにおいて授業内容を十分に理解していたか 以上4つの観点について ～ の4項目を満たし、且つ新たな視点を組み入れつつ検討することができていれば「卓越している」 ～ のうちの4項目を満たしていれば「かなり上にある」 ～ のうちの3項目を満たしていれば「やや上にある」 ～ のうちの2項目を満たしていれば「その水準にある」						
(6)事前事後学習の内容	前週の授業内容を復習してから授業に臨むこと。この授業は90時間の学修を必要とする内容である。従って、60時間以上の時間外学習が必要となる。						
(7)履修上の注意	・授業で紹介される事例については授業外で口外しない。守秘義務を守ること。 ・授業内容の不明な点を調べる，復習する，紹介文献を熟読するなど，自発的学習を求める。						
(8)質問、相談への対応	茅野理恵研究室（東校舎4階403） e-mail:chinori@shinshu-u.ac.jp						
【教科書】	日本学校心理士資格認定機構編 2020 学校心理学ガイドブック第4版 風間書房 日本学校心理士資格認定機構編 2021 学校心理学ケースレポートハンドブック 風間書房						
【参考書】	水野治久・石隈利紀編 2013 よくわかる学校心理学 ミネルヴァ書房 石隈利紀 1999 学校心理学 誠信書房 日本学校心理学会編 学校心理学ハンドブック 第2版 教育出版						